

せわやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

12月…アイランダー2016・関東トカラ会 教育長 有村 孝一

11月26日に東京・池袋で、全国の島々が集まる祭典「アイランダー2016」が開催されました。「アイランダー」とは、国土交通省の主催で、「島で生活する人、島を愛する人、島の発展を応援する人」という意味合いのものに、離島地域の活性化を図る目的で行われるイベントの名称で、今年で24回を数えます。

会場では、島に住みたい、行きたいという人のために移住・観光相談、島での求人・空き家や漁業体験・自然体験など島の魅力の情報提供、伝統芸能など島の魅力をライブで発信するステージなど各島の多彩な催しで大賑わいでした。なんと全国から79の島が参加しての大イベントです。同じフロアで、全国のいろいろな島の様子が体感できるのです。

山形県酒田市の沖合の「日本海に浮かぶ不思議なアイランド飛島」は、渡り鳥の休憩地として知られ、暖地系植物と寒地系植物が混生し、植生の北限となるタブノキなどが生育しています。また、周囲8キロ、人口300人、椿20万本が自生する東京都利島(としま)村は読み方が同じです。新潟県の栗島浦村には留学生の寮があり、子どもたちが伸び伸びと生活していることを、村長さんからお聞きしました。その他、佐渡島や小笠原島、瀬戸内海の島々のブースを訪問し、多くの人たちからたくさんの情報をいただきました。

十島村のブースには、十島村出身の方々にも来ていただきました。「お話しは、明日ゆっくりとね。」ということで、翌27日は「関東トカラ会」総会が開催され、それに参加いたしました。

鹿児島には「トカラふるさと会」があります。誕生して今年で8年目になります。会員は約400人です。毎年11月3日に「おはら祭り」に参加し、午後から総会が開催されます。「トカラはひとつ、想いはひとつ」の合い言葉のもと、それぞれに旧交を温めています。関東トカラ会は結成して3年目になります。愛甲会長を中心に50人が総会に参加しました。副村長が十島村の人口について、私が十島村の教育について、総務課長が十島村の現状について話しま



した。参加した皆さんは、ふるさとの旬の情報に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

ふるさと十島を離れて数十年、「もう一度島に帰りたい。」「来年も運動会に行こうか。」などと、異口同音にふるさとへの思いを口にしていました。東京で歌う「十島のうた」は何ともいえない響きがありました。島を離れてから長い時間が経過していても「トカラはひとつ、想いはひとつ」でした。帰りの飛行機から見える富士山に、トカラ富士を重ねながら眺めることでした。



贈 ☆ 吉留建設からクリスマスケーキのプレゼント ☆

十島村の7つの小・中学校の子どもたちに、今年もケーキのプレゼントがありました。毎年、送られている吉留建設株式会社からの心温まるうれしいプレゼントです。ここに子どもたちの喜びの声を紹介します。「今年もたくさんのケーキをありがとうございます。クリームがたくさん入っていてとてもおいしかったです。」「毎年、おいしいケーキをありがとうございます。これからも、お仕事ががんばってください。」「クリスマスケーキありがとうございます。わたしは、イチゴが大好きです。」「吉留建設株式会社の皆さん、本当にありがとうございます。」



輝 シリーズ この島で暮らして「島での生活」 口之島中学校 3年 長谷川海人

僕が口之島で生活を始めて、もう5年が過ぎようとしています。ここでの生活の中で、様々なものを見聞きし、島に来るまでは経験できなかったような「初めての体験」を数多く味わっています。特に、自然の美しさは、言葉では言い表せないほどです。学校の教室の窓から見えるたくさんの緑と、美しい海の青さには、いつも癒やされています。ここで生活できるのも、あと3か月ですが、これからも、島の魅力を味わ

い尽くしたいです。僕の将来の夢は、島で畜産や農業をすることです。畜産は、相手が生き物ということで、大変な部分がありますが、父と一緒に頑張りたいです。また、農業では、たくさんの農産物を出荷して、十島村の素晴らしさをアピールしたいです。



4月からは、高校生になります。寮生活となり、不安なこともたくさんありますがこの5年間で学んだことや口之島での思い出を思い出して、頑張っていきたいです。

2016年度「地球・夢・未来—石油の作文コンクール 審査員特別賞受賞作文 「島だって石油で元気」 平島小学校5年 中村亮輔

ここは『刻を忘れさせる島』というキャッチフレーズを持つ平島という島に、僕は住んでいます。小学生は、全員で5人しかいません。この小さな島で、便利に生活ができるのは、石油のおかげです。

鹿児島島の喜入という所に、全国でも最大級の石油びちく基地があります。石油は、灯油、軽油、ガソリンなどになり、車やストーブに飛行機、化学製品、電化製品など、様々なものにたくさん使われています。日本の石油は、99.7パーセントを輸入しており、その輸入した石油を、製油所でガソリンなどに変えていることを知りました。その方法は、石油を加熱し、じょう気にした後、何度で液体になったかによって、ガソリンやガス、軽油などに分けるそうです。電気も、石油で発電ができます。島の発電所は重油を使った火力発電で、島で使う電気をすべておぎなっています。

この石油も調べたところ、たくさん使われているそうです。人口は多くないのに、日本は世界で三番目に多く使っていました。今、エアコンの温度設定などで省エネの取組をしています。どうして省エネに取り組んでいるのかというと、理由は二つあります。一つ目は、エネルギーに含まれる二酸化炭素が、今は1時間で百万トン排出されています。それによって、地球温暖化が進み、生態系がこわれてしまうからです。二つ目は、石油の量には限りがあるため、もしなくなったら、車が使えない、電気せい品が使えないなど、今のようなくらしができなくなるからです。実際、石油はあとどのくらいでなくなるのでしょうか。調べてみると、石油は今のペースで使っていくと、30年くらいと言われていたのですが、技術が進歩する分、省エネも進み、60年はもつだろうと言われていたそうです。30年が倍に増えたけれども、あと60年しかないのも、もっと節約する必要があると思います。

日本は、製油した石油の品質がトップレベルと言

われています。今では、植物をガソリンにして省エネにする取り組みも進められています。

今、小さな平島でくらしが出来るのも、石油が使えているからです。これからは省エネを考えながら、エアコンの温度設定を決めて、元気に過ごしたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ

中之島小・中学校 教諭 小牧 恵理

30年近く前、教員採用試験の面接で『あなたが自分の学級で毎日必ずこれをやろう』と決めるとしたら何をやりますか。』と聞かれたのを覚えています。そのとき、「毎日、全員と話します。」と答え、「それはできるものではありませんよ。」と、現実の見えていなかった私はたしなめられたのでした。

しかし、中之島に来てからは、学級、いや中学生全員と話さない日はありません。7人ですから当然ですが、彼等の日々の表情が見え、変化に気付くことのできる濃密な日々を送っています。また、子どもたちを育むもの同士として、保護者とも日常的に顔を合わせ、言葉を交わすことができるのも大きなメリットです。

もう一つ、大きな収穫と感じていることがあります。それは、授業の中で、子どもたちの満足した顔を見るチャンスを得て、学びの原点を再認識させてもらえたことです。

私は、専門の国語以外に、臨免により小中学生の家庭科も担当しています。不器用を自認している私としては、特に、製作や調理実習に緊張を覚えます。授業に取り組む前に、自分でまず縫ってみる、調理してみる…それからの実習です。

私の不安に反して、実習の時の子どもたちの楽しそうな表情！できあがった作品を満足げに見て、「もう一つ作ります。」と意欲を見せる姿に、こちらの気持ちも高まります。調理実習でも、「野菜をゆでると色がきれいだね。」とか「鍋で炊いたご飯はおいしい。」など、感じたこと、発見したことが言葉になって躍ります。今日の学びを生かしたいという思いが伝わってきます。

さて、国語の授業で、これまでに何回この思いを味わえただろうかと私は自問します。できた、という手応え。またやりたいという意欲付け。それを求めて、これからは進んでいきたいと思ひます。

「教職員仲間であるあなた」への
私からのメッセージ

鹿児島県で教職に就く以上、離島勤務は当然のことですが、十島での生活は、特に、私たちの視野を広げ、思慮を深めてくれると思ひませんか。まだ、十島に来たことのない教師仲間にも、是非、この魅力を伝えましょう。